Nursing now

看護の力で健康な社会を！

2020年

- ナイチンゲール生誕200周年
- 看護師・助産師の国際年
- Nursing Nowキャンペーン
- 「世界看護状況報告書」、「世界助産状況報告書」の公表

看護が躍進する年

Triple Impact

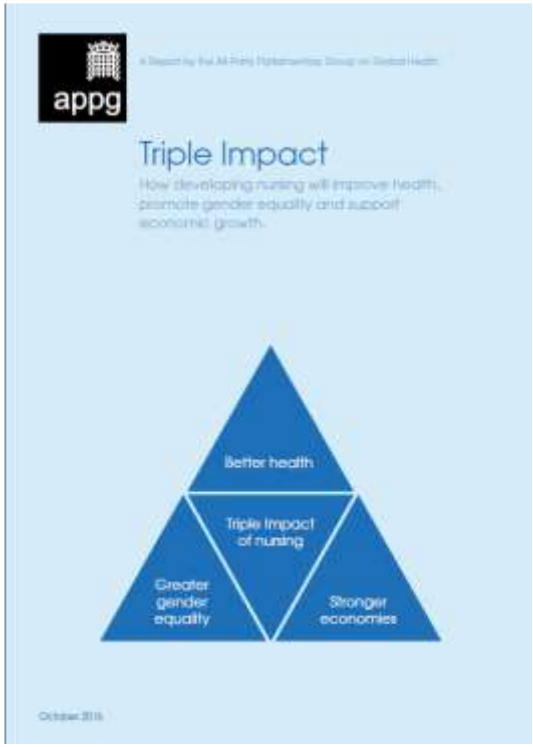
How developing nursing will improve health, promote gender equality and support economic growth

- 英国のグローバルヘルスに関する議員連盟（ the All-Party Parliamentary Group on Global Health）による報告書
- 2016年10月に公表

「看護師は、専門職保健医療従事者の圧倒的な最大要素であり、世界的にユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成することは、看護師が知識とスキルを完全に活用できるかにかかっている。それにもかかわらず、看護師はしばしば軽視され、看護師の貢献は過小評価されている。」

「看護師の数を増加し、看護を発展することで、看護師はその潜在力を実現し、**健康の向上**、**ジェンダー平等の推進**、及び**経済成長の発展**という幅広い*トリプル・インパクト*をもたらすことができるだろう。」

トリプル・インパクト報告書より
http://www.appg-globalhealth.org.uk/home/4556655530



グローバルヘルスに関する議員連盟
グローバル化が進展し、不安定さが増す時代において、グローバルヘルスは重要な概念であり、英国政府が主要政策として取上げている。グローバルヘルスに関する議員連盟は、あらゆる場で生活する人々に影響を及ぼす根源的な、分野横断的な健康課題に焦点を当てる。そして、英国と海外において健康に影響を及ぼす主要な政策に関して議会及び政府に勧告や助言をもたらす。

Triple Impact報告書は、看護師の発展は持続可能な開発目標（SDGs）に貢献することを明らかにした。

SDGs目標3　すべての人に健康と福祉を

SDGs目標5　ジェンダー平等を実現しよう

SDGs目標8　働きがいも経済成長も

看護への投資は、人々の健康に加え、持続可能な開発目標（SDGs）達成や経済成長につながる

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと看護職

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成には、看護職は欠かすことができない。

- 看護職は、保健医療労働力の半数を占める。
- 看護職は、人々・地域に最も近い存在として、人々や地域のニーズを把握している。
- 看護職は、予防活動、健康増進にも大きく関与している。

しかしながら、2030年までに看護師・助産師は900万人不足すると世界保健機関（WHO）は推計＊。
人々が健康課題に直面している状況を解決するには、看護職の貢献が最大化されるよう、看護への投資と看護職が活躍できる環境が必要となっている。
WHOや国連 は、保健医療労働力の費用は財政負担ではなく、利益のある投資であり、経済成長への道筋となることも指摘している。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）
WHOは、「全ての人々が基礎的な保健医療サービスを、必要な時に、負担可能な費用で享受できる状態」と定義する。
WHOは、SDGsの目標に掲げられる以前よりUHCを推進してきた。

＊出典：WHO(2016), Health workforce requirements for universal health coverage and Sustainable Development Goals.(Human Resources for Health Observer, 17)
https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/250330/9789241511407-?sequence=1

Nursing Now

キャンペーンについて

Nursing Nowは、
看護職が持つ可能性を最大限に発揮し
看護職が健康課題に積極的に取り組み
人々の健康の向上に貢献するために行動する
世界的なキャンペーン

目標

- 看護職の教育、専門職開発、水準、規制および雇用条件の向上への投資の拡大
- 効果的・革新的看護実践の普及
- 看護職が健康政策に及ぼす影響の拡大
- リーダーシップの職位に就く看護職の増加
- 政策・意思決定者へのエビデンスの提供

世界的な活動

- 世界89カ国で、282のグループが活動（2019年6月時点）
- 国際看護師協会（ICN)、世界保健機関（WHO)と連携
- 英国のバーデット看護信託が運営
- ケンブリッジ公爵夫人（キャサリン妃）が後援者

出典：ICN大会メインセッション1 “Nursing Now” シーラ・トゥルー教授、ナイジェル・クリスプ卿より

世界的な活動

出典：Nursing Nowウェブサイト　https://www.nursingnow.org/global-activity-map/　（2019年8月22日アクセス）

Nursing Nowが推奨する活動

看護職

①経験やアイデアの共有

②看護における変革の主体として専門職の主張／擁護等の企画・実施

③Nursing Now支持の表明

④ソーシャルメディアツールキットを利用し、キャンペーンの認知度の向上

パートナー

①看護師・看護と共に、または、代表して主張／擁護の実施

②サービス提供における革新の推進及び効果的な看護実践例の共有

③Nursing Now支持の表明

他国のキャンペーン例：カナダ
①看護リーダーシップ（リーダーシップ開発）、②主任看護官（連邦、州、準州のCNO確立）、③先住民（利用者の文化的ニーズを満たしたサービス提供）を3つの柱に掲げ、活動を展開している。

Nursing Now

～看護の力で健康な社会を！～

日本看護協会・日本看護連盟と47都道府県看護協会・都道府県連盟による連携した取組み

目的:

- 看護職が社会に求められる役割を果たせるよう、看護職が一丸となって取組みを進める機運とする。
- 国民の看護職への関心を深め、人々の健康向上に向けた看護職の役割理解を促進する。

メインテーマ　看護の力で健康な社会を！

実施期間　2019年2月22日～2020年12月末

Nursing Now キャンペーンにより、本会の政策・事業の一層の推進を図る

本会の取組みはTriple Impactが示したSDGsの達成に貢献する

目標3　すべての人に健康と福祉を

本会使命

人々の人間としての尊厳を維持し、健康で幸福でありたいという普遍的なニーズに応え、**人々の健康な生活の実現に貢献する**。そのため、

- 教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図る
- 看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくりを推進する
- 人々のニーズに応える看護領域の開発・展開を図る

本会の取組みはTriple Impactが示したSDGsの達成に貢献する

目標5　ジェンダー平等を実現しよう

看護職の人数：166万人[1)]

看護職に占める女性の割合：93.9%　[1)]

女性の就業者数：2,801万人[2)]

2016年　働く女性の約17人に1人が看護職

- 「看護職は、女性が過半数を占める職種ではあるが、ジェンダーに基づく職種（女性の職集）としてはいけない」（Triple impact)。一方で、看護職の大多数は、女性が占めている現状がある。
- 看護職の発展は、（女性の活躍推進という意味で）ジェンダー平等に貢献する
- 女性の労働の在り方について先駆的に取組んできた本会の経験と実績を活かし、日本全体の女性の労働の在り方について社会に発信・けん引する活動に取り組む（看護の将来ビジョン（日本看護協会.2015））

出典：1）日本看護協会出版会編集：平成30年看護関係統計資料集　2）　総務省　平成28年労働力調査

本会の取組みはTriple Impactが示したSDGsの達成に貢献する

目標8　働きがいも経済成長も

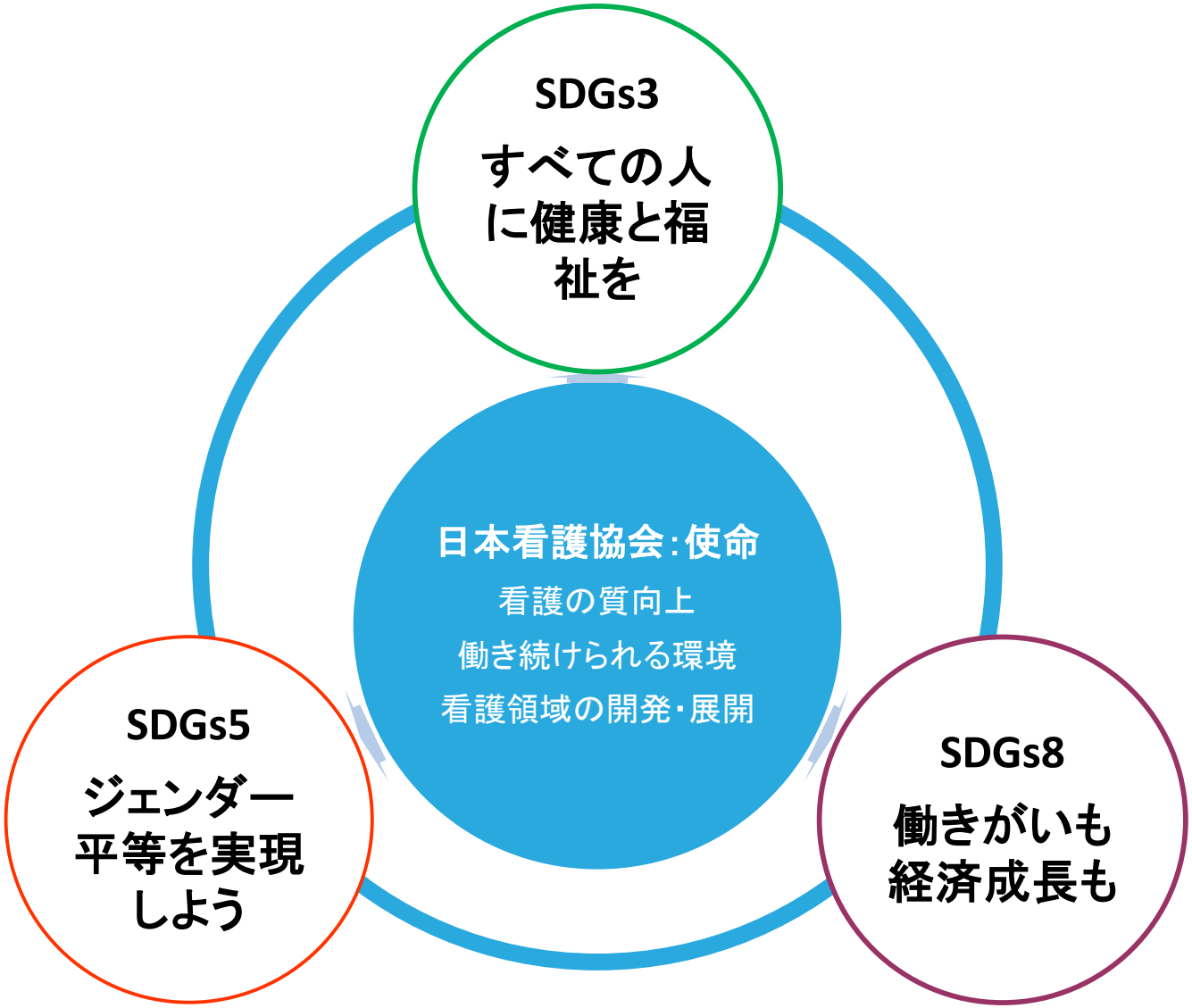
ヘルシーワークプレイス

看護職が働き続けられる
看護職が健康で能力発揮して働く

働きがいのある仕事
労働市場への継続的な参加
経済活動への関与

※看護職への暴力・ハラスメントが減ることで、目標5の達成にも貢献

Nursing Nowキャンペーンを通じて、本会の政策・事業の一層の推進を図ることは、SDGsの達成に貢献する



Nursing Nowに関する本会の活動

キャンペーンの認知度の向上

- ✓本会総会、日本看護学会、その他会議等におけるキャンペーンの周知・普及活動

- ✓チラシの配布、ポスターの掲示、缶バッジの配布
- ✓JNAビルクリスタルコーンの装飾

Nursing Nowキャンペーン実行委員会

Nursing Nowキャンペーンを日本国内において広く展開するため、30団体の参加、13団体の後援のもと発足。

参加団体：公益社団法人日本看護協会・日本看護連盟（Nursing Nowローカルグループ）、公益社団法人日本助産師会、全国保健師長会、一般社団法人日本精神科看護協会、一般社団法人日本看護学校協議会、公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会、一般社団法人日本看護系大学協議会、一般社団法人日本私立看護系大学協会、一般社団法人全国保健師教育機関協議会、公益社団法人全国助産師教育協議会、認定看護管理者会、一般社団法人看護系学会等社会保険連合、公益財団法人笹川保健財団、公益財団法人木村看護教育振興財団、WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター/聖路加国際大学、災害健康危機管理WHO協力センター/兵庫県立大学地域ケア開発研究所、国立研究開発法人国立国際医療研究センター、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、独立行政法人労働者健康安全機構、国立大学病院看護部長会議、社会福祉法人恩賜財団済生会、一般社団法人日本私立医科大学協会病院部会看護部長会、独立行政法人地域医療機能推進機構、全国国立病院看護部長協議会、公益社団法人全国自治体病院協議会看護部会、国家公務員共済組合連合会、一般社団法人日本産業保健師会、一般社団法人日本看護系学会協議会

後援団体：公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院会、公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本医療法人協会、公益社団法人日本精神科病院協会、公益社団法人全国自治体病院協議会、公益社団法人全国老人保健施設協会、公益社団法人全国老人福祉施設協議会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、日本労働組合総連合会、認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML

Nursing Nowに関する実行委員会の活動

キャンペーンの認知度の向上

- ✓各団体の事業を通じた周知・普及活動
- ✓Nursing Nowキャンペーン大使による活動の活性化
- ✓Tシャツ、グッズ等の作成

経験やアイディアの共有

- ✓特設ウェブサイト・SNSの活用（順次機能拡張予定）

専門職としての主張

- ✓「忘れられない看護エピソード」との連動（検討中）

↓

キャンペーン成果のとりまとめ・普及

Nursing now

看護の力で健康な社会を！